

— 鎌倉幕府への奏進から750年 —

21世紀の『立正安國論』考



原井 慶鳳氏

丸山 照雄氏

仮の種を蒔く

原井 摂受と折伏の繰り返しになりますが、法華經本門八品の心は、仏の種を蒔くこと。これが折伏。「安國論」は北条義重や法然淨土教に向けられていますが、「未來もまた然るべきか」という「奥書」の一節がある。未來、これから先の人たちも、心して下さいよ」と時間空間を超えていて、あるばかりではなく、対告衆は多岐にわたり人々であった。でも、いま、「安國論」に類するものを政府に献上しても、一宗派の見解としてしか受けられないでしょう。対告衆とは誰か。もう

なりますが、法華經本門八品の心は、仏の種を蒔くこと。これが折伏。「安國論」は北条義重や法然淨土教に向けられていますが、「未來もまた然るべきか」という「奥書」の一節がある。未來、これから先の人たちも、心して下さいよ」と時間空間を超えていて、あるばかりではなく、対告衆は多岐にわたり人々であった。でも、いま、「安國論」に類するものを政府に献上しても、一宗派の見解としてしか受けられないでしょう。対告衆とは誰か。もう

対談者略歴

(おわり)

諫曉は対向衆への発信行動で『安國論』立体化を 丸山 照雄

原井 慶鳳
発信すれば対話ができるのです。しかし発信というのは対話をします。対話をしなければお互い理解することもできない。

丸山 発信というの分かります。しかし発信というのは対話をします。対話をしなければお互い理解することもできない。

原井 発信すれば対話ができるのです。何かが発信しないと対話なんかできません。

丸山 相手も発信しようとしています。相手の発信にどう応えるのか。お互いが発信があった場合に、どう歩み寄るのかということですよ。

原井 宗祖はなぜ発信したか。幕府に進言してはいますが、生産をかける発信によって民衆に警鐘を鳴らしたのです。だから黙つていてはいけない。

丸山 その警鐘に対して幕府は警鐘を鳴らしたわけです。首を刎ねようとして、佐渡に流したり。われわれが何か言っても、何かアクションが起りますか。

対話のための発信

原井 発信すれば対話ができるのです。何かが発信しないと対話なんかできません。

丸山 発信しようとしています。相手の発信にどう応えるのか。お互いが発信があった場合に、どう歩み寄るのかということですよ。

原井 宗祖はなぜ発信したか。幕府に進言してはいますが、生産をかける発信によって民衆に警鐘を鳴らしたのです。だから黙つていてはいけない。

丸山 その警鐘に対して幕府は警鐘を鳴らしたわけです。首を刎ねようとして、佐渡に流したり。われわれが何か言っても、何かアクションが起りますか。

原井 丸山 照雄

原井